

2016年度 異文化間教育学会
Intercultural Education Society of Japan

第37回大会プログラム



桜美林大学
J. F. Oberlin University

プレセミナー：2016年6月3日(金)

会期：2016年6月4日(土)～5日(日)

会場：桜美林大学

異文化間教育学会 第37回大会

プログラム 目次

異文化間教育学会 第37回大会ご挨拶	1
大会参加者へのご案内	2
大会日程	4
桜美林大学 町田キャンパスへのアクセス	5
スクールバスのご案内	6
キャンパスマップ	7
会場案内	8
フロアマップ	9
プレセミナーのご案内	12
特定課題研究	13
第37回大会企画 公開シンポジウム	14
多文化系学会連携事業 ランチセッション	15
若手交流会	16
発表について	17
異文化間教育学会「優秀発表賞」について	18
研究発表プログラム	19
個人発表	20
共同発表	28
ケース／パネル発表	30
ポスターセッション	31
第37回大会賛助団体ご芳名	33
異文化間教育学会第37回大会準備委員会	40

2016 年の異文化間教育学会年次大会は、東京都町田市にある桜美林大学で開催させていただくことになりました。みなさまのご来訪をお待ちしております。

まず、桜美林大学を紹介させていただきます。その起源は、1921 年、清水安三が中国の北京において貧困地域の女子教育のために設立した小さな女学校、崇貞学園にあります。清水は終戦後に帰国し、町田に桜美林高等女学校を創立、それが 1966 年に桜美林大学となりました。桜美林(Obirin) という名称は、清水が留学したアメリカの Oberlin College にちなみ、その教育理念を形成したフランスの教育学者、J. F. Oberlin の思想と実践に建学の精神を重ね合わせてつけられたものです。大学は現在、学士課程の 5 学群と大学院の 7 研究科で構成されており、もっとも新しいのは 2016 年度に開設されたばかりのグローバル・コミュニケーション学群です。

桜美林大学では特に外国語教育に力を入れており、タイ語、カンボジア語などアジアの言語を含む 18 言語を学習できることが大きな特徴です。留学生の数も多く、全学の学生数約 8000 人に対して、22 カ国・地域 585 名(2015 年 5 月)となっています。また、留学生以外の、外国につながりを持つ学生も多く在籍しています。

さて、桜美林大学がある町田市は古くからの交通の要衝であり、中世には鎌倉街道上道、近世には大山参りの大山街道が通り、幕末以降は八王子と神奈川を結ぶ絹の道が通っています。「いざ鎌倉」の武士たち、大山参りの信仰の衆、そして近代産業の要である絹の通商と、様々な目的を持ちながら、この地を人々が往来し続けてきました。そこにどんな異文化との出会いがあったのか、過去に思いを馳せながら、当地で新たに異文化間教育について学ぶことができるのは楽しいことです。

皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

異文化間教育学会
第 37 回大会準備委員会
委員長 齋藤伸子

大会参加者へのご案内

大会日程

大会会期：2016(平成28)年6月4日(土)-6月5日(日)

会 場：桜美林大学 町田キャンパス

※懇親会：2016年6月4日(土) 17:40-19:10 会場：さくらカフェ

※プレセミナー：2016年6月3日(金) 13:00-16:30 会場：桜美林大学四谷キャンパス ホール

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。

参加申し込み

事前申し込みをされる方は、大会参加費および懇親会費を、5月16日(月)までにお振込みください。

5月16日以降は、大会当日に当日料金をいただくこととなりますことをご了承ください。

web 入力をお願い

5月16日(月)までに参加申し込みを希望される方は、会員・非会員とも以下の第37回大会ホームページ内「参加・発表の申し込み」ページよりお手続きください。

(<http://www.intercultural.jp/iesj2016/apply.html>)

お申し込み手続き終了後、登録受付完了メールが自動送信されますので、参加費合計金額などの内容をご確認ください。メールを受信後1週間以内に、諸費用を指定口座までお振込みください。参加費の受領をもって、参加申し込みの受付完了といたします。

大会参加費および懇親会費

		事前料金 (5月16日まで)	当日料金
大会参加費	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	3,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員(一般)	6,000円	7,000円
	非会員(学生)	4,000円	5,000円
	維持会員	1口1名様無料	7,000円
	名誉会員	ご招待	
懇親会	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	2,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員(一般)	5,000円	6,000円
	非会員(学生)	3,000円	5,000円
	維持会員	5,000円	6,000円
	名誉会員	ご招待	

お払い込みいただいた参加費などは、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。

- 参加費をお振込みいただく際は、参加者 1 名につき 1 枚の払込取扱票をご使用ください。領収書は、当日に受付でお渡しいたします。
- 6 月 4 日(土)・5 日(日)とも午前 9 時より受付を行いません。受付にて名札をお受け取りいただき、大会会期中はその名札をご着用ください。
- 特定課題研究、公開シンポジウム、個人発表、共同発表、ケース/パネル発表、ポスターセッションの発表者および司会者の方は「発表者・司会者受付」にお越しください。
- 会場には一般来訪者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
- 6 月 4 日(土)・5 日(日)の両日とも大学食堂は営業しておりません。当日「ランチマップ」を配布しますが、昼食は持参されることをおすすめいたします。コンビニは近所に 3 軒ございます。
- 宿泊は各自でご手配ください。

連絡先

大会・Web 申し込み・お支払いに関するお問い合わせ

異文化間教育学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

E-mail : iesj-desk@bunken.co.jp

Fax : 03-5227-8632

会員登録に関するお問い合わせ

異文化間教育学会事務局会員業務係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

E-mail : iesj-post@bunken.co.jp

Fax : 03-3368-2822

大会当日に関するお問い合わせ

第 37 回大会準備委員会事務局

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学 町田キャンパス 齋藤伸子、池田智子

E-mail: ibunkakan37@gmail.ac.jp

大会日程

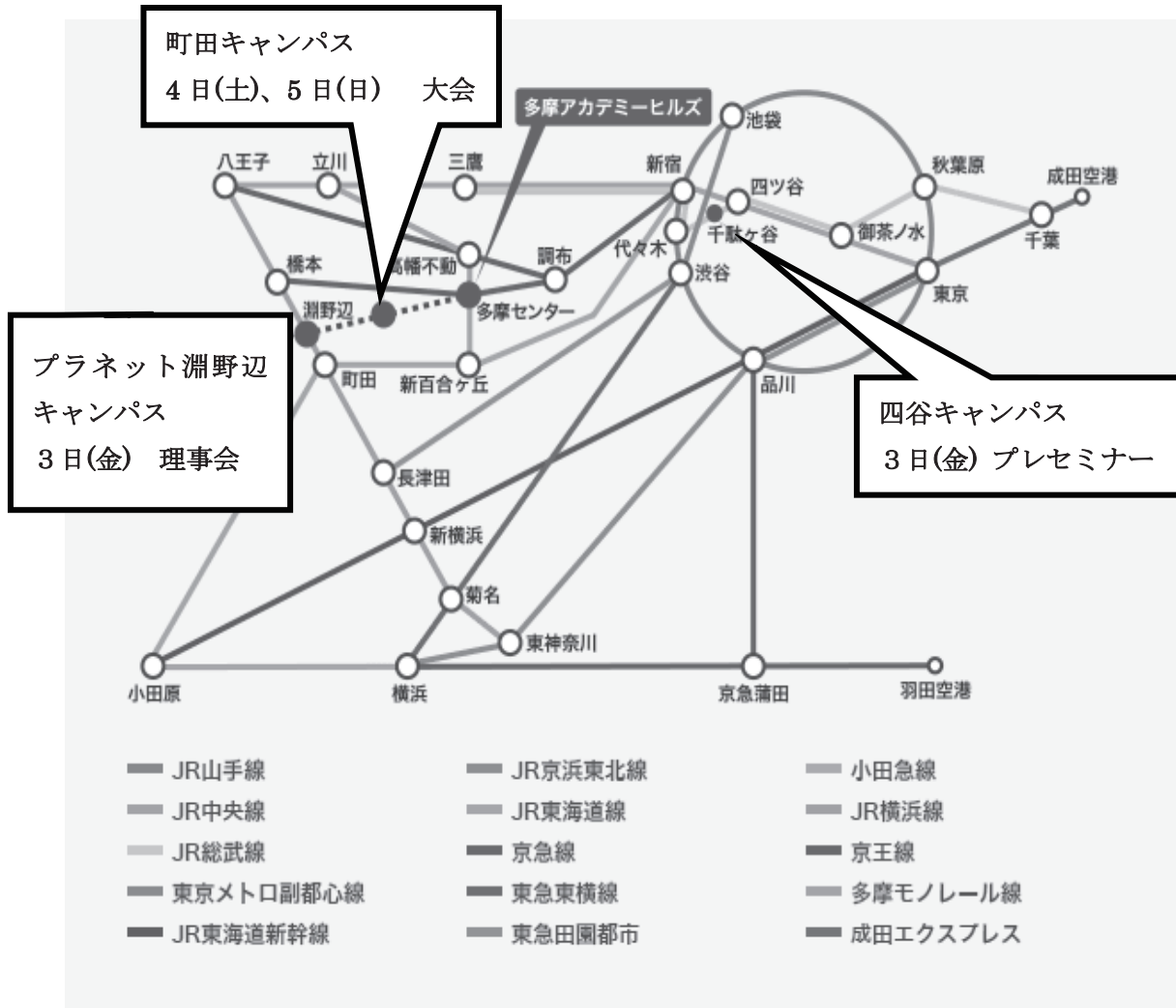
	6月3日(金)	6月4日(土)			6月5日(日)	
9:00		9:00- 受付 (明々館1Fエントランスロビー)			9:00- 受付 (明々館1Fエントランスロビー)	
9:30		9:30-12:00 特定課題研究 「異文化間能力を考える—多様な視点から—」 (太平館2F A200)			9:30-12:00 公開シンポジウム 「サービスラーニングにおける異文化間教育の視点」 (太平館2F A200)	
12:00		12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 紀要編集 (明々館5F A505) 広報・情報化 (明々館5F A507) 企画・交流 (明々館5F A508) 研究 (明々館5F A509)	12:00-13:00 若手交流会 (明々館2F A204)	12:00-14:00 事務局企画事業 (多文化系学会連携協議会) 「多文化共生社会における合理的配慮—障害平等 研修ワークショップ—」 (明々館4F A406)	
12:30		12:30-受付 (四谷キャンパス 1F ホール内)	13:00-14:00 総会 (明々館4F A408)			14:00-16:30 個人発表 (明々館2F A203, A204) (明々館3F A307, A308, A309) (明々館4F A407)
13:00	13:00-16:30 プレセミナー 「ICTがもたらした「異文化」の 越境—インストラクショナルデ ザインは教育実践の共通基盤 となりえるのか?—」 (四谷キャンパス 1F ホール)	14:00-15:00 ポスターセッション (明々館1F 学生ラウンジ)				
14:00		15:00-17:30 個人発表 (明々館2F A203, A204) (明々館3F A307, A308, A309) (明々館4F A406)			14:00-15:30 ケースパネル (明々館5F A506, A510)	
15:00		15:00-17:00 共同発表 (明々館4F A407, A408) (明々館5F A506, A510)			14:00-16:30 ポスター セッション (明々館1F 学生ラ ウンジ)	
15:30						
16:30						
17:00	17:00-19:00 理事会 (淵野辺駅前キャンパス 4F P405)	懇親会場へ移動				
17:10		17:40-19:10 懇親会 (崇貞館1F さくらカフェ)				
17:40						
18:10						
19:00						
19:10						

*6月4日(土)・5日(日)の会場はすべて、町田キャンパスです。明々館と太平館は隣接しつながっています。

*ポスターセッションの発表は2日間にわたって掲示します。発表者は在席時間には必ず在席していただきます。
2日目の在席時間に関しては任意の在席となります。

桜美林大学へのアクセス

■6月4日(土)、5日(日)の大会は、町田キャンパスで開催します。



■主要駅からの所要時間

新宿	京王線 約45分	多摩センター
新宿	小田急線 約38分	町田
		JR横浜線 約6分
渋谷	東急田園都市線 約34分	長津田
		JR横浜線 約13分
八王子	JR横浜線 約19分	淵野辺

スクールバスのご案内

6月4日(土)

淵野辺 便 (所要時間 約7分)

淵野辺(PFC)発	時	学園発
約10分間隔	8~17	約10分間隔
なし	18	35分
なし	19	(臨時便) 25分、40分

多摩センター 便 (所要時間 約20分)

多摩センター発	時	学園発
35分	8	10分 40分
5分 35分	9~17	10分 40分
なし	18	35分

6月5日(日) ◎多摩センター便は運行いたしません。

淵野辺 便 (臨時便) (所要時間 約7分)

淵野辺(PFC)発	時	学園発
45分	8	なし
0分 10分	9	なし
なし	10~15	なし
なし	16	40分 55分
なし	17	05分

■路線バス(神奈川中央交通-神奈中バス)もご利用になれます

淵野辺駅から

「淵野辺駅北口」→(約6分)→「桜美林学園前」下車すぐ

- ・乗り場：淵野辺駅改札を出て正面右手のエスカレーターで下り、一番奥1番のバス停
- ・ローソンの前に到着します。会場はマクドナルドの交差点を渡ってすぐの高い建物です。

町田駅から

①「町田バスセンター」13番乗り場→(約20分)→「忠生都営住宅前」下車3分

- ・バス下車後進行方向に進むとすぐマクドナルドの交差点です。斜め右前が会場の建物です。

②「町田バスセンター」7番乗り場→(約20分)→「桜美林学園」下車4分

- ・バス下車後来た道に戻り最初の角を右に曲がります。まっすぐ風車の見えるところまで歩いて風車の手前を左に回り込みます。左前方に見える高い建物が会場です。

キャンパスマップ

- 6月4日(土)、5日(日)の会場は「町田キャンパス」です。
- 大会は、「明々館」と「太平館」で行われます。



会場案内

《大会前日 6月3日(金) 四谷キャンパス(千駄ヶ谷)・淵野辺駅前キャンパス(PFC)》

プレセミナー受付	12:30-	四谷キャンパス 1F ホール内
プレセミナー	13:00-16:30	四谷キャンパス 1F ホール
理事会	17:00-19:00	淵野辺駅前キャンパス(PFC) 4F P405

《大会第1日 6月4日(土) 町田キャンパス 明々館・太平館》

受付	9:00-	明々館 1F エントランスロビー
特定課題研究	9:30-12:00	太平館 2F A200 教室
若手交流会	12:00-13:30	明々館 2F A204 教室
総会	13:00-14:00	明々館 4F A408 教室
ポスターセッション	14:00-15:00	明々館 1F 学生ラウンジ
個人発表	15:00-17:30	明々館 2F、3F、4F の各教室
共同発表	15:00-17:00	明々館 4F、5F の各教室
各種委員会		
紀要編集委員会	12:00-13:00	明々館 5F A505 教室
広報・情報化委員会	〃	明々館 5F A507 教室
企画・交流委員会	〃	明々館 5F A508 教室
研究委員会	〃	明々館 5F A509 教室
懇親会	17:40-19:10	崇貞館 1F さくらカフェ

《大会第2日 6月5日(日) 町田キャンパス 明々館・太平館》

受付	9:00-	明々館 1F エントランスロビー
公開シンポジウム	9:30-12:00	太平館 2F A200 教室
事務局企画事業	12:00-14:00	明々館 4F A406 教室
ポスターセッション	14:00-16:30	明々館 1F 学生ラウンジ
個人発表	14:00-16:30	明々館 2F、3F、4F の各教室
ケース／パネル発表	14:00-15:30	明々館 5F A506 教室、A510 教室

■書籍展示

明々館 1F 学生ラウンジ

■昼食会場・休憩室

太平館 1F 学生ラウンジ

太平館 2F A201、A202

明々館 8F 全教室、展望小ラウンジ

■大会本部

明々館 1F A105 教室

■学会本部

明々館 1F A104 教室

■スタッフ控室

明々館 地下 A002 教室

■クローク

第1日 9:00-18:00

明々館 地下 A003 教室

第2日 9:00-17:00

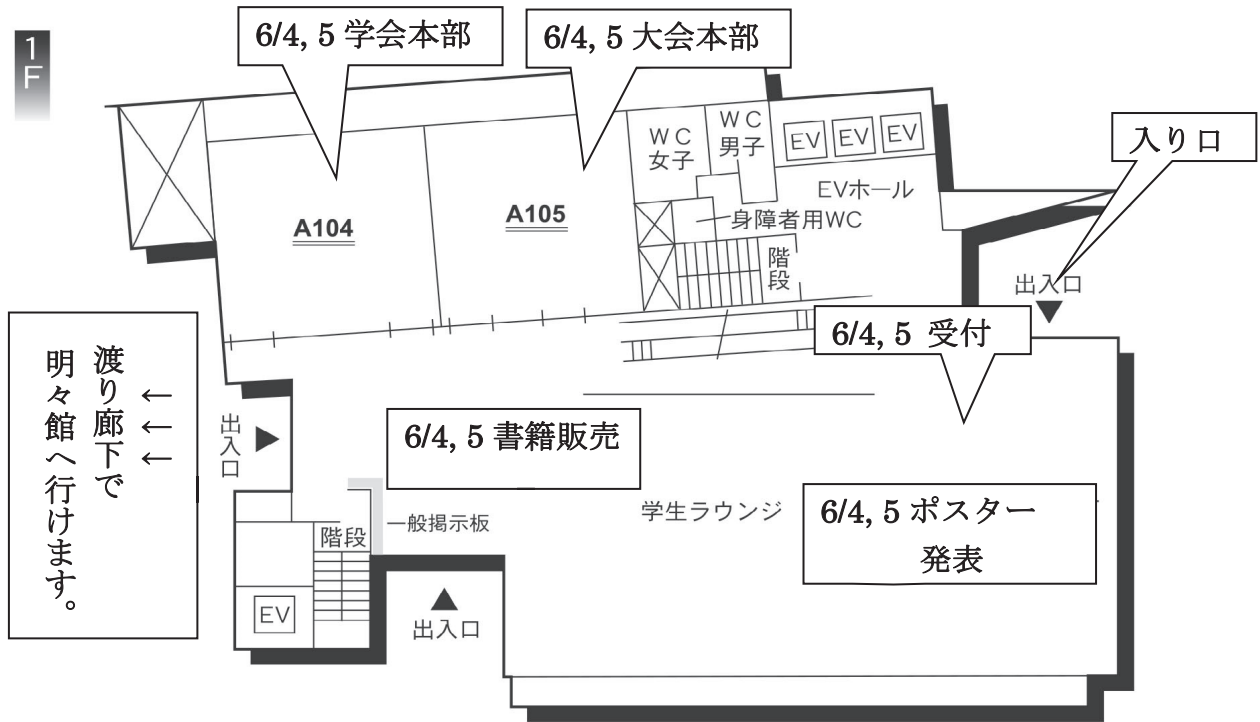
明々館 地下 A003 教室

※クロークへお預け入れの際に預かり証をお受け取りください。貴重品はお預かりできません。

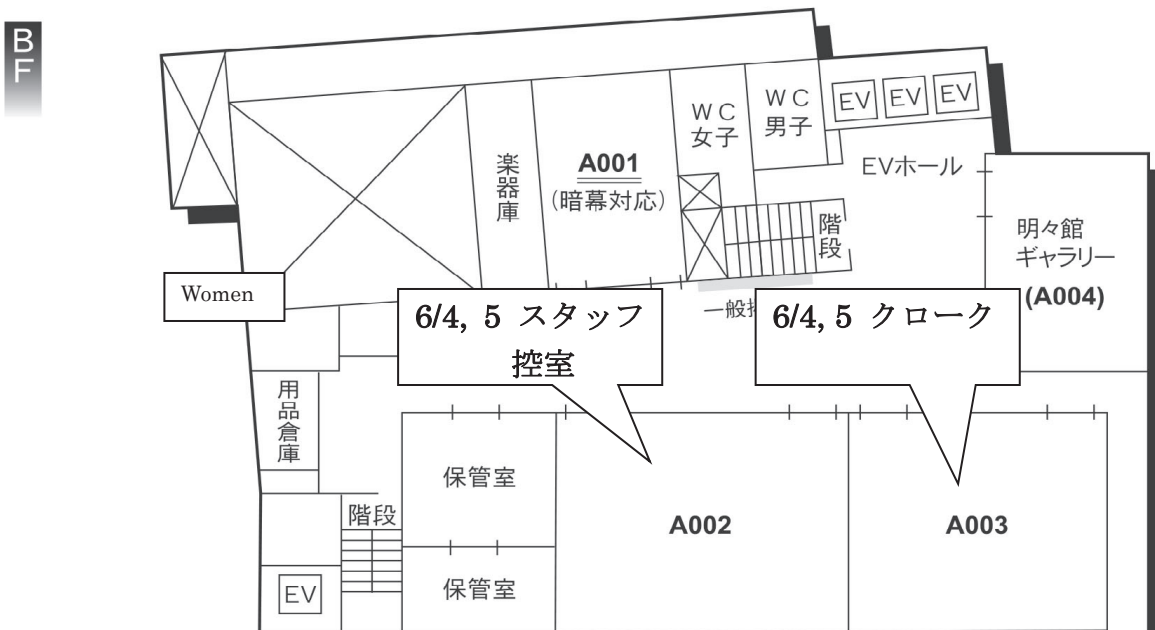
フロアマップ

明々館

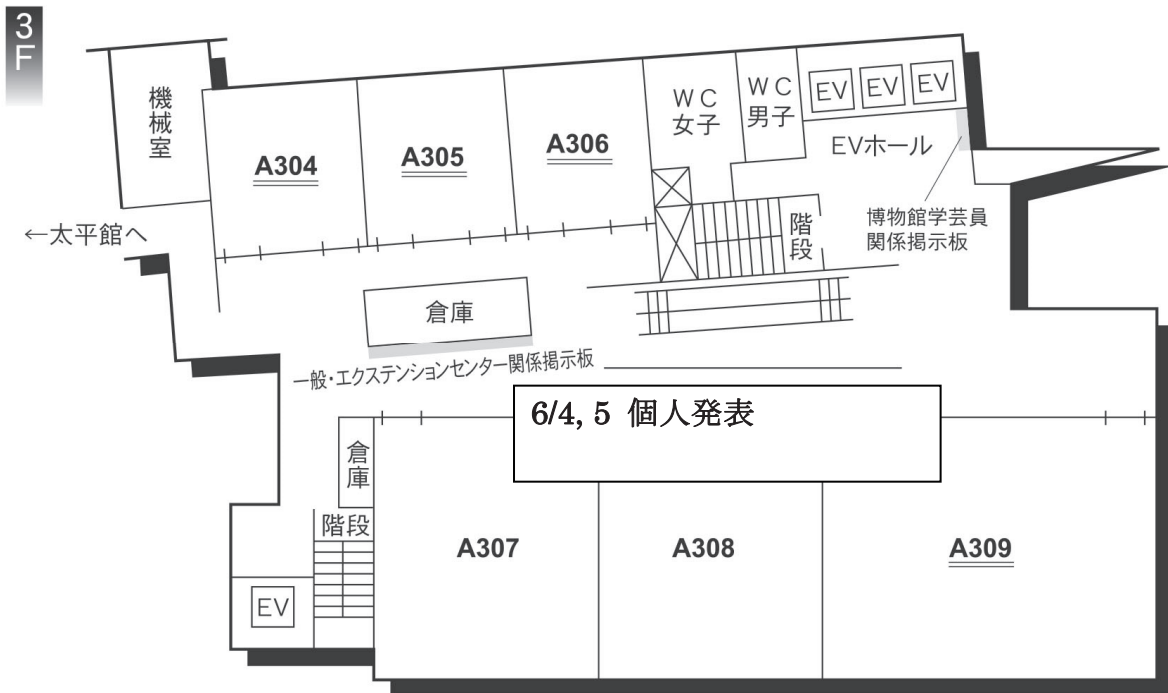
1階 受付、ポスター発表、書籍販売、大会本部、学会本部



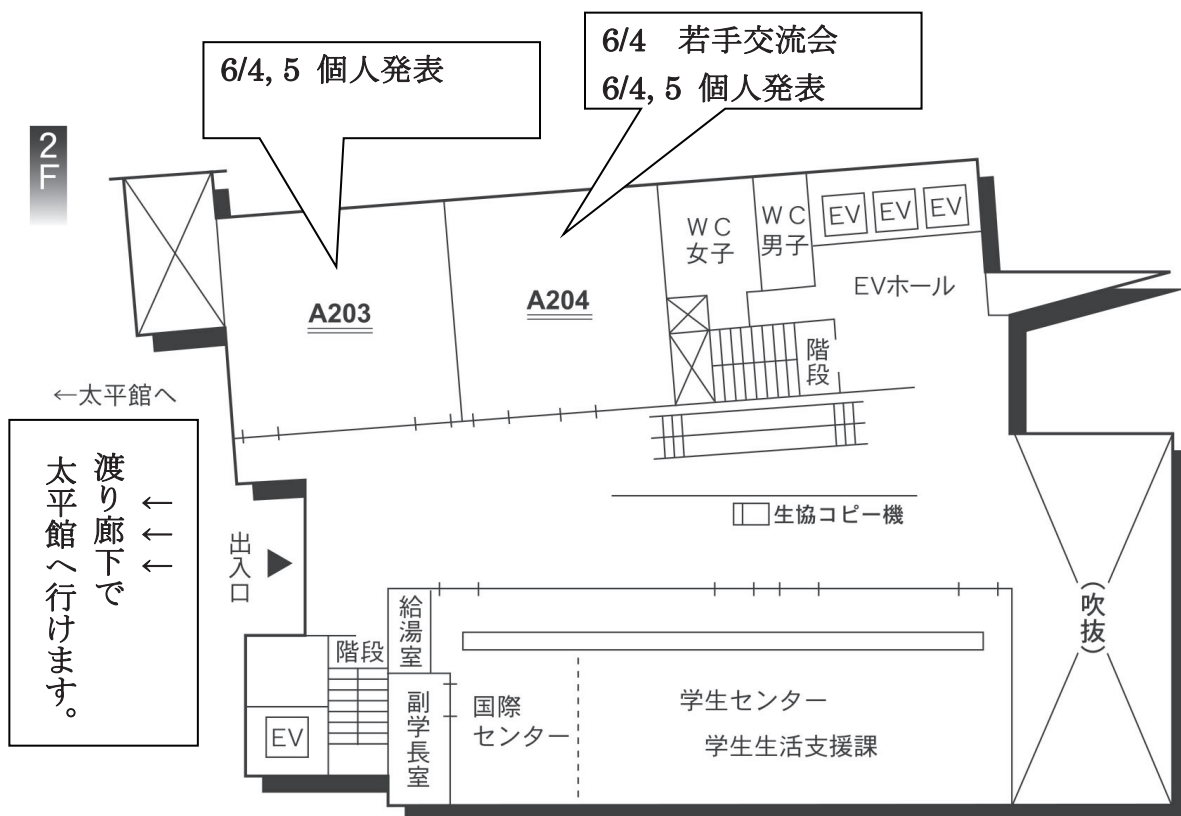
地下1階 クローク、スタッフ控室



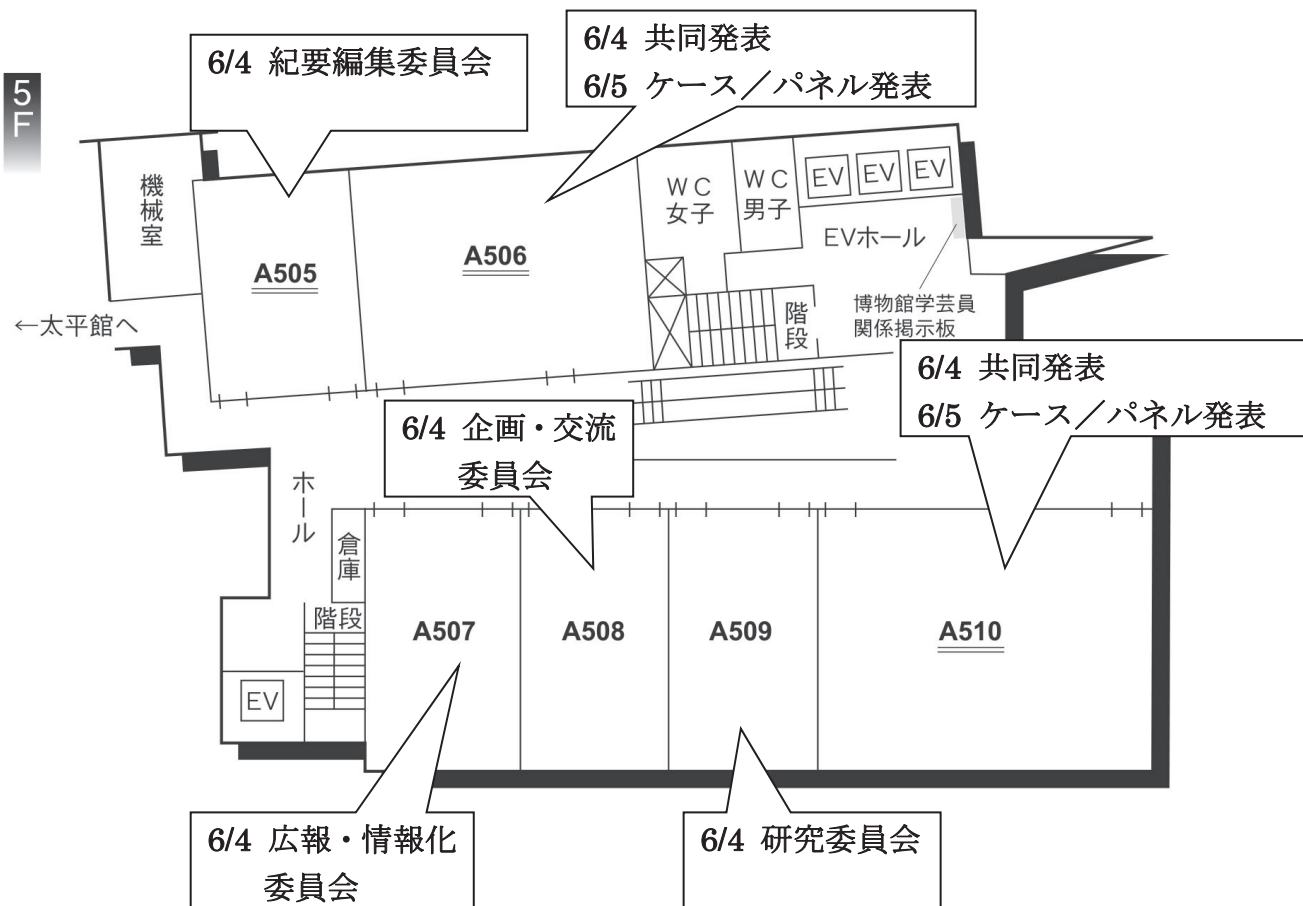
3階 個人発表



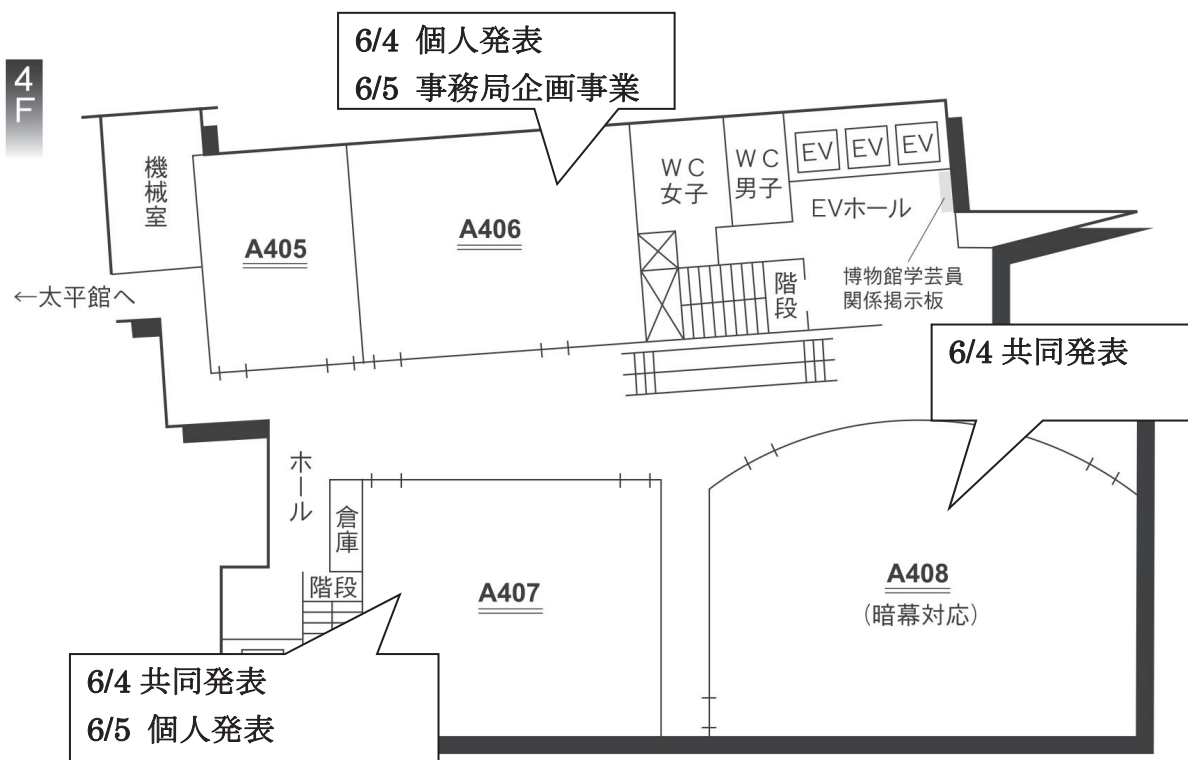
2階 若手交流会、個人発表



5階 各種委員会、共同発表、ケース／パネル発表

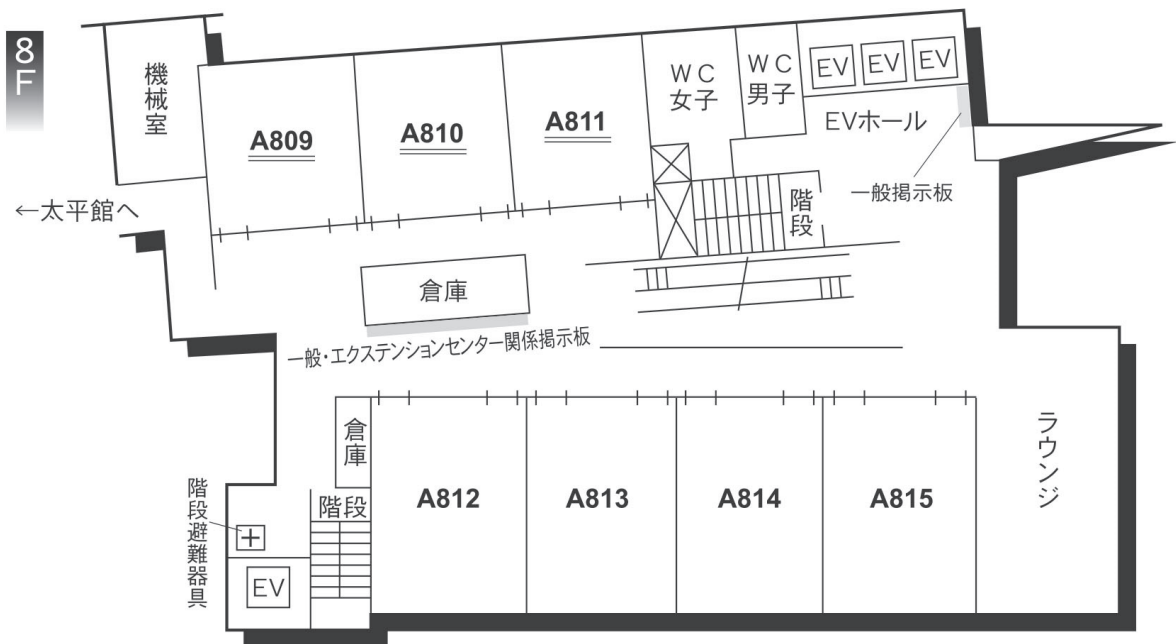


4階 総会、事務局企画事業、個人発表、共同発表



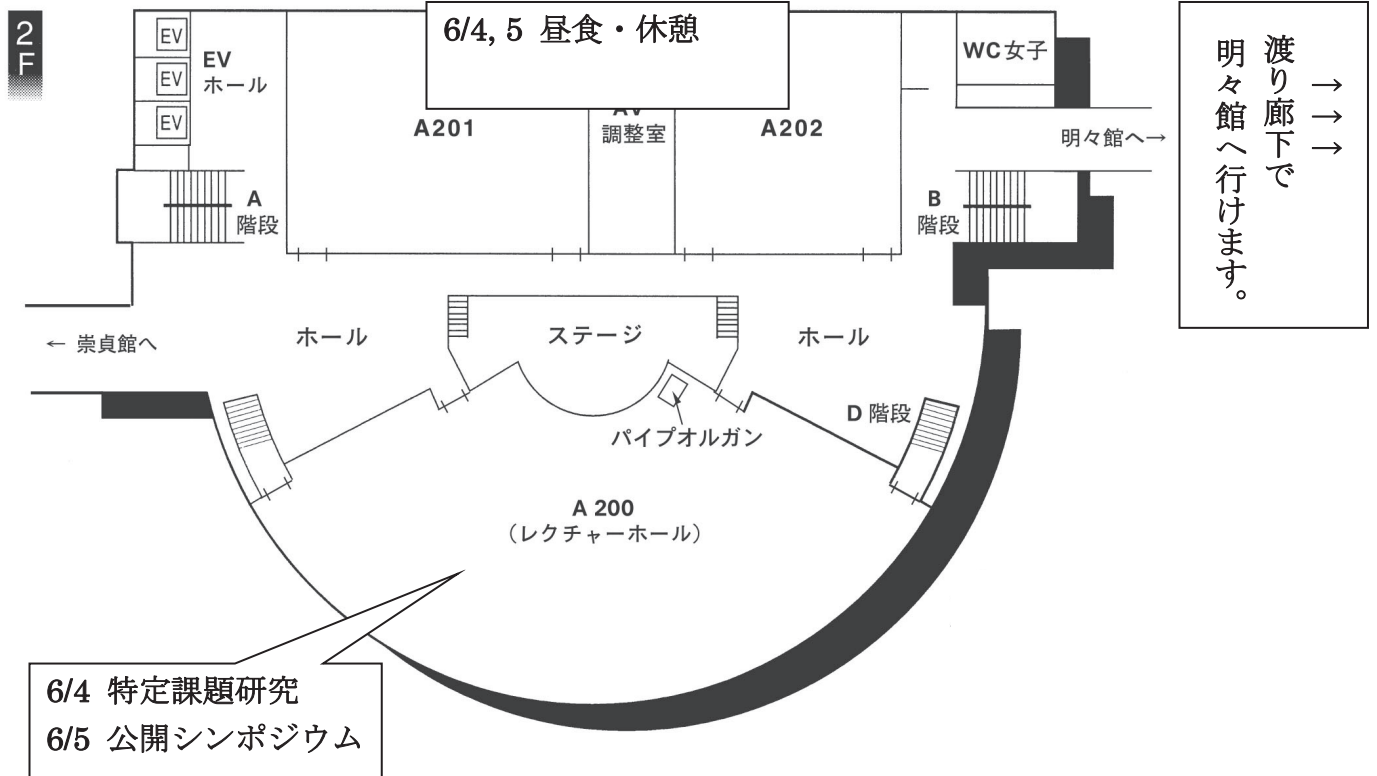
8階 休憩・打ち合わせ場所

※4日・5日とも、8階の全フロアを休憩や打ち合わせに自由にお使いいただけます。
晴れた日は、ラウンジからの眺めがきれいです。

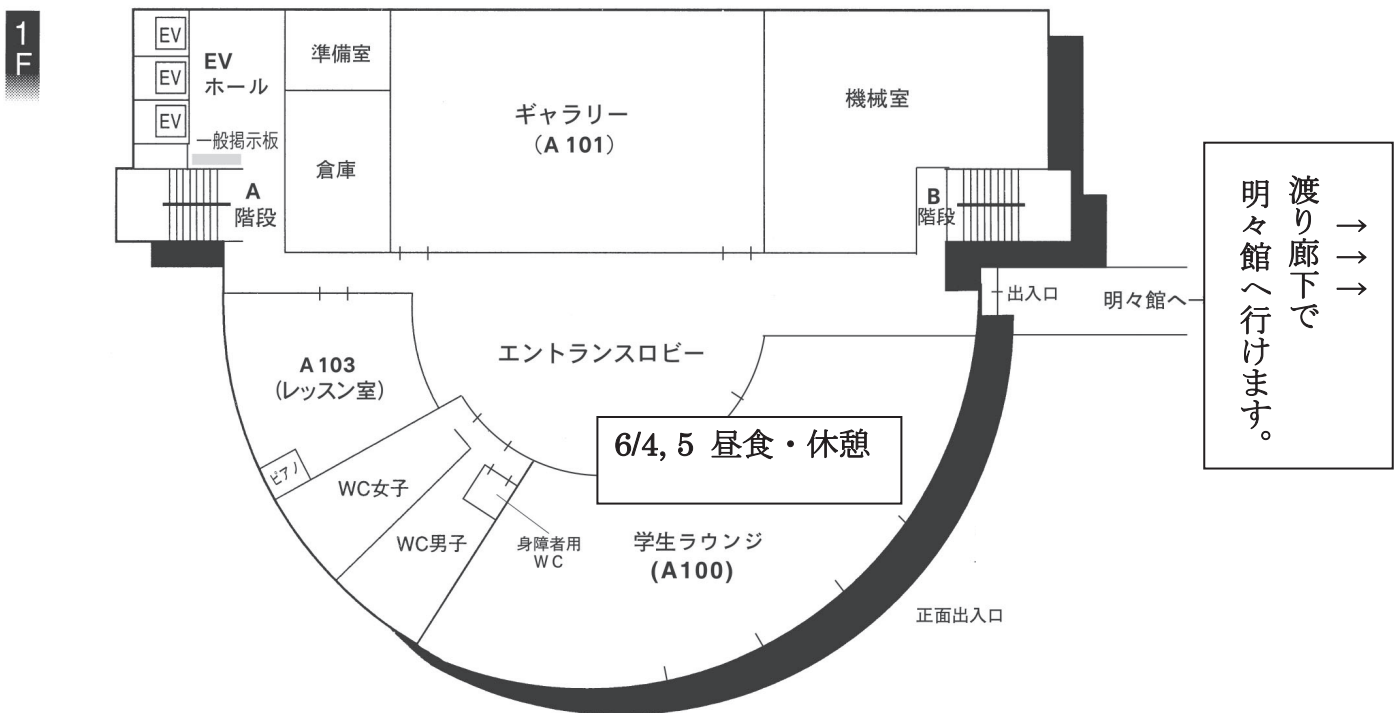


太平館

2階 特定課題研究、公開シンポジウム



1階 昼食・休憩所



プレセミナー

「ICT がもたらした「異文化」の越境—インストラクショナルデザインは教育実践の共通基盤となりえるのか?—」について

プレセミナーは、日本におけるインストラクショナルデザインの第一人者である、鈴木克明氏（熊本大学）をお迎えして開催いたします。会員の皆さまはもちろん、どなたでも参加できます。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第 37 回大会準備委員会 委員長 齋藤伸子

テーマ：『ICT がもたらした「異文化」の越境

—インストラクショナルデザインは教育実践の共通基盤となりえるのか?—』

インストラクショナルデザイン（ID）の理論は、効果的・効率的・魅力的な教育を設計する手法として欧米を中心に研究されてきました。日本においても e ラーニングの普及とともに ID 理論の導入事例が増えています。さて、欧米の文化の中で育ってきた ID ですが、社会・文化的な背景が異なる（あるいは多様性を内包する）文脈においても教育実践の共通基盤となりえるのでしょうか。それとも、その文脈や教育状況に応じて柔軟に可変するアプローチが求められるのでしょうか。本セミナーでは、ID の基本的概念や代表的モデルを紹介するとともに、学習への影響が強いと考えられてきた文化的次元を例にとり、文化横断型教育の設計・影響についてワークショップ形式で考えていきます。

■開催日時

2016 年 6 月 3 日（金）13:00～16:30（受付開始 12:30～）

■場所

桜美林大学四谷キャンパス（JR 千駄ヶ谷駅または地下鉄北参道駅より徒歩 5 分）

※4 日・5 日の大会と開催キャンパスが異なりますのでお気を付けください。

■講師

鈴木克明氏（熊本大学 教授）

■募集人員

80 名（要事前申し込み）

■参加費

正会員・通信会員	4,000 円	学生会員	3,000 円
非会員	5,000 円	非会員（学生）	4,000 円

■お申し込み方法

参加をご希望の方は、大会 HP > 参加/発表申込よりお申込みください。

<http://www.intercultural.jp/iesj2016/apply.html>

お申し込み後に登録受け付け完了メールをお送りします。

■申込み問い合わせ先

異文化間教育学会大会ヘルプデスク e-mail : iesj-desk@bunken.co.jp

■プレセミナー問い合わせ先

第 37 回大会準備委員会 e-mail : ibunkakan37@gmail.com

特定課題研究

6月4日(土) 9:30-12:00
桜美林大学 太平館 2F A200 教室

異文化間能力を考える —多様な視点から—

異文化間能力(intercultural competence)とはどのような能力をいうのだろうか。異文化間教育研究が、異なる文化の狭間で生起する教育の現象やその意味を解明し、その知見を基に異なる文化と共にいかに生きていくかという人間形成のあり方を追究する営みであることを考えると、きわめて本質的な問いといえるだろう。

グローバル化が進み、知識基盤社会が到来するなかで、社会のあらゆる領域で、異文化間能力が求められる時代になった。異文化接触・交流の日常化する今日的な状況のなかで、異なる人々と関わり協働していくことは、だれにでも求められる資質・能力の一つとなっているのである。

今回の特定課題研究においては、異文化間能力の概念を取り上げ、1年次には、異文化間能力とは何かを、2年次には、異文化間能力をいかに活用するのかについて検討したい。本大会では、さまざまな専門分野の多様な視点から、異文化間能力について迫りたい。

■ コーディネータ 森茂岳雄 (中央大学)

- 発題1 日本語教育から見た異文化間能力
—海外の中等教育段階におけるカリキュラム開発の視点から—
大船ちさと(国際交流基金日本語国際センター)
- 発題2 発達心理学から見た異文化間能力
—発達段階を考慮した異文化間能力のモデル化に向けて—
塘 利枝子(同志社女子大学)
- 発題3 ヒューマンライブラリーから見た異文化間能力
—コンピテンシーを育てる実践の立場から—
坪井 健(駒澤大学)

■ ディスカッサント 松尾知明 (国立教育政策研究所)

- 企画:研究委員会
森茂岳雄(委員長 中央大学) 齋藤ひろみ(副委員長 東京学芸大学)
- 松尾知明(副委員長 国立教育政策研究所) 青木香代子(中央大学)
中川祐治(福島大学) 塘 利枝子(同志社女子大学)

第37回大会企画 公開シンポジウム

桜美林大学基盤教育インスティテュート サービス・ラーニング・センター共催、
サービス・ラーニング・ネットワーク協力

日時：6月5日(日)9:30～12:00

場所：桜美林大学 太平館 2階 A200

サービス・ラーニングにおける異文化間教育の視点

サービス・ラーニング (SL) は、アメリカで生まれた教育方法です。アメリカでは、社会の多様化・複雑化に伴う共同体意識・公共性の崩壊、若者の政治離れが社会的な課題として浮かび上がっているなか、SLは若者の社会的な課題を解決していく能力を育てる一つの方策と捉えられています。SLにおいて、学生は地域社会に入り、自らが有する知識や技術、心身を用いてサービス活動に従事するなかで、さまざまな人々と出会い、時と場所、状況に応じた関係性を構築しながら、学びを深めていきます。

今回の公開シンポジウムでは、桜美林大学の教育の特徴のひとつであるこのSLについて簡単に説明した後、異なるタイプの実践事例をいくつか取り上げ、これまで異文化間教育学会にて提示されてきた4つの視点(①文化の多様性・複合性、②価値観の問い直し・視点の転換、③相互作用・相互変容、価値創造の営み、④関係性の構築)から分析します。そして、ここからSL実践にはどのような異文化間教育の視点が内在しているのか、その可能性と課題とは何かを明らかにすると同時に、SLという概念、教育方法をどのように異文化間教育に取り入れることができるのかを検討します。

■企画・コーディネーター

林 加奈子 (桜美林大学)

■パネリスト

牧田 東一 (桜美林大学)

林 加奈子 (桜美林大学)

市川 享子 (明治学院大学)

武田 直樹 (筑波学院大学)

■コメンテーター

細谷 早里 (関東学院大学)

■司会

齋藤 伸子 (桜美林大学 大会準備委員長)

※参加費無料、どなたでもご参加いただけます。公開シンポジウムのみのご参加も可能です

※公開シンポジウムだけにご参加の方は、当日、会場(A200)前で受付いたします。

事務局企画（多文化系学会連携協議会）

日時：6月5日（日）12:00～14:00

場所：桜美林大学 太平館 4階 A406

「多文化共生社会における合理的配慮—障害平等研修ワークショップ—」について

2011年にスタートした4学会連携シンポジウムは多文化系学会連携シンポジウムと改名し2015年7月に日本学校教育学会で「多文化社会を担う人づくり」をテーマに実施しました。2016年度は異文化間教育学会がシンポジウムを下記の企画で開催いたします。

テーマ：『多文化共生社会における合理的配慮—障害平等研修ワークショップ—』

2016年の4月から障害者差別解消法が施行されるにあたり、合理的配慮が義務づけられ企業や学校は社会的な責任を負うこととなります。多様性を重視すると共に、合理的な配慮とは何かについて考えていくことは重要だと考えます。そこで、本企画は、国際協力機構の専門員（社会保障）の久野研二先生をお招きして、合理的配慮の考え方をお話していただき、障害者支援の現場では、現在、どのような障害教育をしているか、障害平等研修の体験から、発見型学習方法を通しての多様性と共生のための啓発教育を考えるワークショップをしていただきます。軽食もご用意し、多くの方々のご参加をお待ちしております。

■ファシリテーター

講師：久野研二氏（国際協力機構 専門員）

■募集人員

100名（要事前申し込み）

■参加費

無料（軽食がでます。）

■お申し込み方法

参加をご希望の方は、大会HP>参加/発表申込よりお申込みください。

お申し込み後に送信される登録受け付け完了メールをお送りします。

■申込み問い合わせ先

異文化間教育学会大会ヘルプデスク iesj-desk@bunken.co.jp

■企画問い合わせ先 異文化間教育学会事務局 iesj@tmu.ac.jp

担当 学会事務局

小柳志津会員（首都大学東京）

岡村郁子会員（首都大学東京）

見世千賀子会員（東京学芸大学）

若手交流会

日時：6月4日（土）12:00～13:00

場所：桜美林大学 明々館 2階 A204

悩める若手研究者はいかにして未来を切り拓いてきたのか —キャリア形成に向けて—

2016年度異文化間教育学会大会では、若手交流企画として「悩める若手研究者はいかにして未来を切り拓いてきたのか—キャリア形成に向けて—」と題して若手研究者の交流の場を設けます。自称「若手」の方なら、どなたでもご参加いただけます。昼食を取りながら自由な雰囲気でお話できればと考えています。ふるってご来場ください。

※昼食は各自ご持参ください。

■企画主旨

修士課程、博士課程在籍中の若手研究者にとって学位取得は最も重要な課題であり、最大の悩みかと思えます。学位を取得できたとしても、研究者として自立するためには、今度は自分の専門分野や知見をより活かせる職場を獲得する必要があります。昨今、日本の大学では若手教員の任期なしポストが減少しており、無事、就職できてもそれが任期付きのポストである場合には、より安定した職場を目指し、さらにステップアップすることが望まれます。それに加え、女性研究者は、結婚や出産・育児などのライフイベントと学位取得・就職などの時期が重なる場合があり、状況に応じて大きな決断や覚悟が必要になってきます。

本交流会では、若手研究者同士のネットワークを構築、拡充し、研究者として漸進してゆくために、悩みや不安、キャリア形成の経験、知見を共有し、分かち合う場作りを目指します。第一部「小さな講演会」では、論文投稿や学位取得、キャリア形成、進路、就職について、2名の若手研究者が自身の経験をもとにお話しします。第二部「ネットワーキングランチ」では、グループトークを通して、若手研究者ならではの悩みや不安の共有や情報交換、ネットワーク作りに多少でも貢献できたらと思っています。自称？若手研究者の皆さん、奮ってご参加ください。

■話題提供者

- ・小松 翠（お茶の水女子大学）
- ・南浦 涼介（東京学芸大学）

■企画・運営

委員長 野山 広 常任理事（国立国語研究所）

副委員長 小松 翠（お茶の水女子大学）

発表について

研究発表は、以下の種別で行なわれます。発表者、題目、時間帯、会場などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

個人発表

共同発表

ケース／パネル発表

ポスターセッション

■個人発表、共同発表、ケース／パネル、ポスターセッション 発表要領

1. 発表時間（交代時間を含む）

A. 個人発表 30分（発表20分、質疑応答10分）

B. 共同発表 60分（発表40分、質疑応答20分）

C. ケース／パネル発表 90分（発表50分、質疑応答40分）

※会場での運営は、各グループでお願いいたします。

参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

D. ポスターセッション 6月4日（土）14:00-15:00（在籍時間：14:00-15:00）

※上記の時間帯は持ち場を離れないでください。会場は12:00からご使用いただけます。翌日の5日（日）16:30まで掲示しておいて下さい。

6月5日（日）14:00-16:30（在籍時間：14:00-15:00）

※在籍時間を設けていますが、必ずしも持ち場にいる必要はありません。

16:30にポスターを撤去して下さい。2日目に会場にいない方に関しては、大会準備委員会に事前にご相談下さい。17:00までに撤去されないポスターに関しては、事務局の方で処分致します。

ポスターパネルのサイズは横90cm×縦170cmです。ポスター掲示範囲は、横90cm×縦130cm程度以内が適当です。

2. 配布資料

- ・ハンドアウトを配布される方は、1発表につき50部程度ご用意ください。なお、大会準備委員会では印刷をお受けすることはできかねますので予めご了承ください。
- ・停電などによりPCが使用できない場合にお備えください。

3. 使用機器

- ・発表を申し込まれた方には、別途機材などに関するご案内をお送りいたします。
- ・会場校にて各教室にPCとプロジェクタを用意しますが、万が一接続などの問題が発生した場合に備え、ご自身のノートPCもお持ちください。Macやタブレットの場合はVGAアダプタもご用意ください。
- ・機材の操作は発表者ご自身で行なってください。

4. 発表者欠席の場合

- ・やむを得ない事情により発表者が欠席する場合には、できるだけ前日までに大会準備委員会にお知らせください。

※第37回大会準備委員会 e-mail: ibunkakan@gmail.com

- ・発表取りやめがあっても、プログラムの繰り上げはいたしません。

異文化間教育学会「優秀発表賞」について

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を図ることを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象に、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

すでに大会 HP 等でも示してあるとおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件（注）のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。

審査方法については、エントリーされた発表ごとに2名の評価者（研究委員会により委嘱）が会場で評価します。選考方法については、学会 HP に掲載してある選考手続きおよび規定に基づき、別途、優秀発表賞審査委員会を設置します。その後、本賞は審査委員会による選考が行われ、理事会の承認を得て決定されます。

「優秀発表賞」の実施にあたり、どうぞ大会参加会員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（注）発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

- ・大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である
- ・修士課程修了後10年以内である

（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）

- ・最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後12年以内である

修了後の期間は、卒業・修了月の末日を終了日として起算する。例えば、大学院修士課程修了者で、3月修了の場合は、3月31日を修了月として、10年後の3月31日までが受賞資格を有する期間とする。

異文化間教育学会
理事長 加賀美 常美代

研究発表プログラム

※すべて明々館が会場となります。

個人発表

6月4日(土)	15:00-17:30	会場	(2F A203 教室)	(2F A204 教室)	
		会場	(3F A307 教室)	(3F A308 教室)	(3F A 309 教室)
		会場	(4F A406 教室)		
6月5日(日)	14:00-16:30	会場	(2F A203 教室)	(2F A204 教室)	
		会場	(3F A307 教室)	(3F A308 教室)	(3F A 309 教室)
		会場	(4F A407 教室)		

共同発表

6月4日(土)	15:00-17:00	会場	(4F A407 教室)	(4F A408 教室)
		会場	(5F A506 教室)	(5F A510 教室)

ケース/パネル発表

6月5日(日)	14:00-15:30	会場	(5F A506 教室)	(4F A510 教室)
---------	-------------	----	--------------	--------------

ポスターセッション

6月4日(土)	14:00-15:00	(1F 学生ラウンジ)	
		在籍時間	13:00-14:00
6月5日(日)	14:00-16:30	(1F 学生ラウンジ)	
		在籍時間	14:00-15:00 (発表者の都合により不在の場合もあります。)

個人発表

A203

6月4日(土)

司会：尾中夏美（岩手大学）

矢崎満夫（静岡大学大学院教育学研究科）

15:00—15:30 アニメを素材とした年少学習者のための日本語教育—新たな資質・能力観に基づく知識活用型学習としての意義—

矢崎 満夫（静岡大学大学院教育学研究科）

15:30—16:00 高校で始まる日本語教育—母語を活用しての実践報告—

仲江 千鶴（昭和女子大学大学院）

16:00—16:30 短期訪日日本語研修で日本語学習者は何をどのように「批判的に」学ぶのか—シンガポール国立大学生の学びの諸相から—

齋藤 亨子（National University of Singapore）

16:30—17:00 文化の重層性を体感させるビジターセッションの試み—韓国の大学における日本語会話授業の実践報告—

藤 美帆（広島修道大学 国際センター）

個人発表

A204

6月4日(土)

司会：金子浩一（宮城大学）

宇土泰寛（相山女学園大学）

15:00—15:30 算数・数学指導ができる日本語指導者の育成を—学齢期には、日本語指導と並行して算数への道筋こそ必要—

田中 薫（公益財団法人とよなか国際交流協会・とよなかJSL）

15:30—16:00 北米補習授業校における小学部高学年社会科カリキュラム開発と授業設計

近田 由紀子（イースタンミシガン大学世界言語学部客員研究員（2015-2016））

16:00—16:30 映像記憶に見られる文化の影響—アメリカの高校生の視聴調査から見たもの—

塚本 美恵子（駿河台大学メディア情報学部）

16:30—17:00 外国につながる生徒への寄り添いを目的としたワークショップ

黒田 協子（相模向陽館高校）

17:00—17:30 海外で日本語を学ぶ高校生は「日本」をどのように捉えているか—フィリピン、セブ地域での事例から—

松井 孝浩（国際交流基金 日本語国際センター）

個人発表

A307

6月4日(土)

司会：鈴木一代（埼玉学園大学）

奥村聡（一般社団法人CCCプロジェクト）

15:00—15:30

外国語話者に対する幼児の期待と態度について—国際プレスクールとの比較—

久津木 文（神戸松蔭女子学院大学 人間科学部）

15:30—16:00

「やさしい日本語」のむずかしさ—日本人の「遠慮・察しコミュニケーション」の枠組みから—

小山 慎治（電気通信大学）

16:00—16:30

大学の地域交流の促進に向けた取り組み—地域貢献部署への聞き取り調査からの考察—

阿部 祐子（国際教養大学国際教養学部）

16:30—17:00

外国人看護師受け入れへの抵抗感
—日本人看護師へのインタビュー分析から—

竹山 愛（一橋大学大学院言語社会研究科）

個人発表

A308

6月4日(土)

司会：青木香代子（中央大学）

内田千春（共栄大学）

15:00—15:30

多文化教育を行う教師の育成
—自己理解と関係性を中核に置く学びの場づくり—

内田 千春（共栄大学教育学部）

15:30—16:00

「対立」と「合意」をテーマにした中学校社会科学習指導案作成からの学生たちの気づき（2）

齋藤 眞宏（旭川大学）

16:00—16:30

異文化間教育的な視点から博物館学芸員課程を考える

清水 貴恵（桜美林大学リベラルアーツ学群）

16:30—17:00

多文化社会コーディネーターとしての<わたし>の変容過程

伴野 崇生（慶應義塾大学）

個人発表

A309

6月4日(土)

司会：新見有紀子(一橋大学)

小林亮(玉川大学)

- 15:00—15:30 日本人大学生の留学体験における成果にソーシャル・ネットワーク形成が及ぼす影響に関する検討
河合 道雄(京都大学大学院教育学研究科)
- 15:30—16:00 在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークに関する一考察—九州大学在学生の事例を通して—
呉 暁良(九州大学大学院地球社会統合科学府)
- 16:00—16:30 日本における韓国人留学生の困難とその克服に関する質的研究—振り返りインタビュー調査に基づいて—
李 奎台(東京外国語大学)
- 16:30—17:00 外国人留学生の日本における就職状況に関する調査—ライフストーリーで見る意識変化—
中橋 真穂(大阪大学大学院工学研究科国際交流推進センター)
- 17:00—17:30 異文化対処能力と失敗観の関係—ベトナム日本企業における日本人社員とベトナム人社員の比較—
西谷 まり(一橋大学国際教育センター)

個人発表

A406

6月4日(土)

司会：岡智之(東京学芸大学)

岸磨貴子(明治大学)

- 15:00—15:30 一人称の視点から捉えた ICT を活用した異文化間教育の意義—10年間の実践を振り返る教師の語りから—
岸 磨貴子(明治大学国際日本学部)
- 15:30—16:00 共通言語不在の異文化接触場面におけるコミュニケーション—映画『単騎、千里を走る』を用いたメディアの読み取り活動から—
宮副ウォン 裕子(桜美林大学大学院 言語教育研究科 日本語教育専攻)
- 16:00—16:30 学習者から見た第2文化教育 — ESLで考慮すべき異文化教育
大味 潤(尚美学園大学総合政策学部非常勤)

個人発表

A203

6月5日(日)

司会：馬淵仁（大阪女学院大学）

出羽孝行（龍谷大学）

- 14:00—14:30 在日タイ人仏教徒が抱える問題とタイ人僧侶の取り組みとは？：
タイ人僧侶へのライフストーリーインタビューを通じて
杉森 建太郎（駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部）
- 14:30—15:00 民族性継承への意味づけ
安本 博司（大阪府立大学大学院）
- 15:00—15:30 日本の公立学校におけるムスリム児童生徒の受け入れの現状と課題
—日欧比較研究に向けた予備的考察—
吉谷 武志（東京学芸大学国際教育センター）
- 15:30—16:00 神戸中華同文学校に見る多文化共生と国際教育
—多文化・多言語教育の実践とハイブリッド文化—
Yuan.馬場 裕子（立命館大学大学院先端総合学術研究科）
- 16:00—16:30 学校教育をめぐる「境界」の再考
—外国人学校に通う日本人生徒の学校経験に着目して—
金南 咲季（大阪大学大学院）

個人発表

A204

6月5日(日)

司会：黒田協子（相模向陽館高校）

田中薫（公益財団法人とよなか国際交流協会・とよなかJSL）

- 14:00—14:30 在外教育施設の現状に関する一考察
—日本人学校・補習授業校に関する聞き取り調査から—
金子 浩一（宮城大学 事業構想学部）
- 14:30—15:00 中国現地校における日本籍中高生の日常世界 —北京市A中学を事例として—
三友 陽子（中国 北京師範大学）
- 15:00—15:30 世界の子どもたちが大陸を越えて学び合う”水と生活” —大陸間ミュージカル広場の活動を通して—
宇土 泰寛（椋山女学園大学教育学部）
- 15:30—16:00 漢字文化圏の国際交流授業の在り方—日中間の小学校における遠隔共同授業の実践から—
陳 卓君（千葉大学大学院人文社会科学研究科）

個人発表	A307	6月5日（日）
-------------	-------------	----------------

司会： 西谷まり（一橋大学）
 小山慎治（電気通信大学）

- 14:00—14:30 **多文化環境で必要となる資質とその獲得のプロセス**
 —混住寮をフィールドとして—
 吉田 千春（明治大学大学院 国際日本学研究所）
- 14:30—15:00 **留学生との協働作業経験を通じた日本人大学生の学び**
 尾中 夏美（岩手大学）
- 15:00—15:30 **多文化クラスにおけるエスノグラフィーの教育実践**
 徳永 智子（慶應義塾大学）
- 15:30—16:00 **多文化共修科目における異文化理解とコミュニケーション促進の効果**
 —多文化共生キャンパス実現に向けた取り組み—
 岡 智之（東京学芸大学留学生センター）
- 16:00—16:30 **授業「異文化理解」の協働的活動におけるリーダーの役割**
 —リーダーとメンバーの関係性に着目して—
 酒井 彩（お茶の水女子大学グローバル人材育成推進センター）

個人発表	A308	6月5日（日）
-------------	-------------	----------------

司会： 齋藤眞宏（旭川大学）
 足立祐子（新潟大学）

- 14:00—14:30 **ドイツの就学前教育における子どもの言語発達の把握と促進**
 立花 有希（宇都宮大学国際学部）
- 14:30—15:00 **ドイツの異文化間教育に関する今日的課題についての—考察—2013 年常設文部大臣**
会議勧告を手がかりに—
 伊藤 亜希子（福岡大学人文学部）
- 15:00—15:30 **20 世紀初頭サンフランシスコにおける移民女性への教育活動**
 —安孫子家文書から読み解く—
 鈴木 麻倫子（京都女子大学大学院文学研究科史学専攻坂口研究室）
- 15:30—16:00 **ライフスタイル移住する日本人家族の教育戦略—グアムの長期滞在・永住者を事例に—**
 芝野 淳一（大阪成蹊大学教育学部）

個人発表

A309

6月5日(日)

司会：齋藤亨子 (National University of Singapore)

藤美帆 (広島修道大学)

14:00—14:30 グローバル人材育成と「日本人性」—海外日本語教師アシスタントプログラム参加学生による報告書の分析から—

青木 香代子 (中央大学文学部事務室)

14:30—15:00 高校交換留学経験者の進路選択プロセス—大学進学に留学経験が与える影響

岩本 綾 (信州大学全学教育機構)

15:00—15:30 短期海外研修の就職活動・大学院進学への影響 — 大学主催プログラム参加学生へのインタビュー調査より —

小林 美文 (立教大学 国際センター)

15:30—16:00 海外留学の中長期的なインパクト: 留学経験者と未経験者に対するオンライン質問票調査結果の比較から

新見 有紀子 (一橋大学法学研究科)

個人発表

A407

6月5日(日)

司会：阿部祐子 (国際教養大学)

保坂敏子 (日本大学)

14:00—14:30 ゼミプロジェクトとしての「ヒューマンライブラリー」実施の振り返り

山下 美樹 (麗澤大学)

14:30—15:00 ヒューマンライブラリーの可能性—2つの実践例を通して—

宮崎 聖乃 (長崎外国語大学 外国語学部国際コミュニケーション学科)

15:00—15:30 キャンパス外教育における留学生参加の傾向

朝水 宗彦 (山口大学経済学部)

15:30—16:00 静岡県中部5市2町連携日本オーストラリア間教育文化交流および異文化間教育プログラム実施に関する報告 2016

奥村 聡 (一般社団法人 CCC プロジェクト)

16:00—16:30 「文化翻訳者」としての言語学習者—映像作品の「文化翻訳」の事例から—

保坂 敏子 (日本大学大学院総合社会情報研究科)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

共同発表

A407

6月4日(土)

司会： 浜田麻里（京都教育大学）

小林美文（立教大学）

**15:00—16:00 外国にルーツを持つ子どもたちへの就学前支援
—二方面からのアプローチより—**

川口 直巳 （愛知教育大学教育学部現代学芸課程日本語教育コース）

山下 絵美 （愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム）

遊佐 美和子 （愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム）

鈴木 絵莉 （愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム）

**16:00—17:00 外国出身保護者と幼稚園・保育園とのやりとりに対する支援の試み—日本語使用支援
サイト「連絡帳を書こう！」について—**

内海 由美子 （山形大学基盤教育院）

澤 恩嬉 （東北文教大学短期大学部）

薄井 宏美 （山形大学基盤教育院）

共同発表

A408

6月4日(土)

司会： 宮崎聖乃（長崎外国語大学）

杉森健太郎（駒澤大学）

15:00—16:00 異文化間教育研究の捉え直し—マクロな視点から政策提言へと繋がる課題—

馬淵 仁 （大阪女学院大学 国際・英語学部）

出羽 孝行 （龍谷大学文学部）

金 侖貞 （首都大学東京 教育学教室）

16:00—17:00 外国人医療人材の研修終了後のキャリア展開：マイクロとマクロの影響要因

浅井 亜紀子 （桜美林大学リベラルアーツ学群）

宮本 節子 （兵庫県立大学環境人間学部）

共同発表

A506

6月4日(土)

司会：杉原由美（慶應義塾大学）
伊藤亜希子（福岡大学）

15:00—16:00 日本語教育に求められる新たな視点
ードイツにおける移民向け教科書から学ぶことー

足立 祐子 （新潟大学留学生センター）
松岡 洋子 （岩手大学グローバル教育センター）

16:00—17:00 韓国における外国人集住都市安山の多言語景観

松崎 真日 （福岡大学）
磯野 英治 （名古屋商科大学）
吹原 豊 （福岡女子大学）
助川 泰彦 （首都大学東京）

共同発表

A510

6月4日(土)

司会：徳永智子（慶應義塾大学）
池田智子（桜美林大学）

15:00—16:00 アジアの紛争経験国の大学生を対象とした平和構築紛争予防教育の実践と評価

池田 満 （南山大学人文学部心理人間学科）
福田 彩 （東京外国語大学）
宮城 徹 （東京外国語大学国際日本学研究院）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

ケース／パネル発表 A506

6月5日(日)

14:00—15:30 日米間の産学官連携の教育実践とそのあり方について考えるーデトロイトモデルを事例として

共同発表者,司会者	桶谷 仁美	イースタンミシガン大学
共同発表者	吉田 睦	デトロイトりんご会補習授業校
共同発表者	村井 龍三	JAPANESE SCHOOL OF DETROIT
共同発表者	文田 明良	学校法人立命館一貫教育部
ディスカッサント	野山 広	国立国語研究所日本語教育研究・情報センター

ケース／パネル発表 A510

6月5日(日)

14:00—15:30 多文化環境と精神的健康ーアイデンティティと「居場所」を中心に

共同発表者,司会者	鈴木 一代	埼玉学園大学人間学部
共同発表者	鈴木 ゆみ	明治学院大学大学院心理学研究科
共同発表者	津田 友理香	国立国際医療研究センター小児科
共同発表者	小林 亮	玉川大学教育学部
ディスカッサント	佐野 秀樹	東京学芸大学教育学部教育心理学講座

ポスター発表

明々館 1F 学生ラウンジ

6月4日(土)

14:00-15:00

6月5日(日)

14:00-16:30

発表者は、1日目の在籍時間には必ず在籍して下さい。

2日目の在籍時間に関しては任意の在籍となります。

1. 大学生の「異文化間コミュニケーション論」学習動機に関する一考察

中川 典子 (流通科学大学 人間社会学部)

2. 日本人学生むけムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み

中野 祥子 (岡山大学大学院社会文化科学研究科)

田中 共子 (岡山大学社会文化科学研究科)

3. グローバルに地域課題を捉える海外研修

松岡 洋子 (岩手大学グローバル教育センター)

尾中 夏美 (岩手大学)

4. 日本人学生の異文化対処力の獲得—外国人留学生との交流を通じて—

前田 和則 (崇城大学)

5. AUC-GS 学習モデルに基づく AS セルのエクササイズとして構成された文化間距離課題への反応

田中 共子 (岡山大学社会文化科学研究科)

6. 日本の大学生の異文化間感受性(intercultural sensitivity)に関する研究

鈴木 ゆみ (明治学院大学大学院心理学研究科)

7. 留学の長期的インパクト—インドネシア人元留学生の子どもへの期待を通して考える

有川 友子 (大阪大学国際教育交流センター)

8. 「異文化適応の構造モデル」から見た元留学生の職場での適応

—理科系ベトナム人社員の事例から—

宮城 徹 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院)

中井 陽子 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院)

9. 多文化就労場面における台湾人元留学生の異文化間コンフリクトと解決方略

守谷 智美 (岡山大学)

池田 聖子 (お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻)

和田 薫子 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

加賀美 常美代 (お茶の水女子大学基幹研究院)

10. 多文化就労場面における韓国人元留学生の異文化間コンフリクトと解決方略

岡村 佳代 (聖学院大学)

文 吉英 (お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科)

加賀美 常美代 (お茶の水女子大学基幹研究院)

11. 台湾における海外留学の現状と考察—日本の「留学生 30 万人計画」への示唆

陳 玉玲 (英検協会)

12. 母語教室の新しい試み—ipad 交流を通じた子どもたちの学び—

高橋 朋子 (近畿大学日本語教育センター)

13. 多言語多文化環境での家庭環境と言語習得

稲田 素子 (立教大学文学部教育学科兼任講師)

14. 外国人児童の作文の内容に関する縦断研究—日本人児童との比較を通して

齋藤 ひろみ (東京学芸大学教育学部)

菅原 雅枝 (東京学芸大学 国際教育センター)

李 佳耀 (東京学芸大学大学院教育学研究科)

三好 大 (東京学芸大学大学院教育学研究科)

15. LGBT という「異文化」と外国語教育の接点 —日本語教育の現場を例に—

萩原 秀樹 (インターカルト日本語学校)

16. 複言語サポーターにとってのコンピテンシー

—語りから示唆されるもの—

徳井 厚子 (信州大学教育学部)

17. 外国人窓口対応支援プログラムの実践

—日本語母語話者に対する「共生言語としての日本語」の教育—

柳田 直美 (一橋大学国際教育センター)

18. 地域日本語教室における「地域」を活かした相互学習型活動の試み

—ムービー作成アプリを用いた活動をもとに—

中川 祐治 (福島大学人間発達文化学類)

永島 恭子 (福島大学 国際交流センター)

19. 留学生のインターネット利用と関係流動性に関する—考察

小松 由美 (東京外国語大学大学院国際日本学研究院)

20. サウジアラビア留学生の日本留学最終年における人的ネットワークの形成

－留学1～2年目との比較を通して－

田口 香奈恵（東海大学国際教育センター）

第 37 回大会 賛助団体ご芳名

明石書店

アカデミア出版会

学文社

風間書房

くろしお出版

ココ出版

セイジ・パブリケーションズ日本支社

東信堂

ベネッセコーポレーション

(以上、五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。ここにご芳名を記して、感謝の意を表します。

異文化間教育学会 第 37 回大会準備委員会
委員長 齋藤 伸子

異文化間教育

◆バックナンバーのご案内(分冊でも、全冊でもご購入できます)

- 1 特集=異文化間教育と教育の国際化 本体2300円+税
- 2 特集=異文化間教育と国際理解 本体2300円+税
- 3 特集=異文化間教育とコミュニケーション 本体2300円+税
- 4 特集=外国語としての日本語の教育 本体2300円+税
- 5 特集=在日留学生と異文化接触 本体2300円+税
- 6 特集=異文化接触と教育摩擦 本体2500円+税
- 7 特集=多文化教育と外国人教育 本体2500円+税
- 8 特集=異文化理解と言語教育 本体2500円+税
- 9 特集=異文化接触とアイデンティティ 本体2500円+税
- 10 特集=異文化間教育学の可能性—学会十五年の回顧と展望 本体2500円+税
- 11 特集=異文化間リテラシー 本体2500円+税
- 12 特集=異文化間教育の実践的展開—その理論と方法 本体2500円+税
- 13 特集=留学生支援システムの最前線 本体2500円+税
- 14 特集=小学校の英語教育—異文化間教育からの提言 本体2500円+税
- 15 特集=異文化間トランス〈20周年記念〉 本体3000円+税
- 16 特集=異文化受容の転機 本体2500円+税
- 17 特集=「総合的な学習」と異文化間教育 本体2000円+税
- 18 特集=地域ネットワークと異文化間教育 本体2000円+税
- 19 特集=越境のもたらすもの 本体2000円+税
- 20 特集=異文化間カウンセリングの今日的課題 本体2000円+税
- 21 特集=在日外国人教育の現在 本体2000円+税
- 22 特集=異文化間教育研究と「日本人性」 本体2000円+税
- 23 特集=異文化間教育の現在 本体2000円+税
- 24 特集=異文化間教育の語り直し—他者・境界・文節化 本体2000円+税
- 25 特集=異文化間教育と教師 本体2000円+税
- 26 特集=バイカルチュラル家族—複数の文化と言語が交叉するところ 本体2000円+税
- 27 特集=異文化間教育学会25年の回顧と展望 本体2300円+税
- 28 特集=地域におけるニューカマー支援と連携—異文化間教育学の視座から 本体2300円+税
- 29 特集=異文化間のコミュニケーションを考える 本体2300円+税
- 30 特集=多文化共生社会をめざして—異文化間教育の使命 本体2300円+税
- 31 特集=生涯を通しての「異文化間教育」 本体2300円+税

異文化間協働—国際文化学の展開

小林哲也 森 聖雨 太田洋子 編著

四六判376ページ 定価(本体3500円+税)

まえがき

第I部 国際文化学の展開—異文化をつなぐ関係性

- 1 国際文化学を学ぶ—アイデンティティと学際性をめぐって 小林哲也
- 2 国際文化の学を考える—体系としての確立をめざして 森 聖雨
- 3 国際文化学の源泉を探る—コスモポリタニズムという希望 佃 繁

第II部 文学から文化学へ—異文化間理解

- 1 自然と文化が巡り合う場所—つなぎ目としてのシドニーの庭園 大田垣裕子
- 2 宇宙のリズムへのつながり—児童文学の試み 大角洋子
- 3 文化の衝突を超えて—E. M. フォイスター『天使も踏むを恐れるところ』 太田洋子
- 4 条理と不条理の間—ミュリエル・スパーク『ブラック・マドンナ』 杉山克枝
- 5 日本文化の多元的認識と「南島」—「ヤポネシア」という視点 西尾宣明

第III部 多文化と相互理解—異文化間交流

- 1 相互理解のコミュニケーション—文化的背景の異なる場 樋口勝也
- 2 国際語としての英語—その功罪 伊達民和
- 3 多文化社会アメリカの葛藤と共生—黒人大学をめぐる 権 瞳
- 4 誤解させる日本という国—説明責任をとらない文化 西道 実

第IV部 実践と理論への志向—異文化間協働

- 1 意識変容と協働の学習—海外体験がもたらすものマッセルホワイト、リンダ・タイアン 松田浩志
- 2 異文化間協働の実践—ネパール研修 関 綾子
- 3 日本語「紹介」の活動—自己の文化の認識から意識の変容へ 亀井慶二
- 4 異文化における教育協力—ミャンマーでの経験をもとに 寺田恭子
- 5 「地域のつながり」と子育て支援—市民と行政による「食育」の協働 森定玲子
- 6 異文化間協働が拓く福祉社会—ボランティア活動は境界を越える 太田洋子

あとがき

アカデミア出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町1-6 TEL.075-771-7055 FAX.075-771-9595

日本社会の多文化化に伴い、一層関心が高まる異文化間教育。
学際的研究から越境的研究へ、新たな知の創出に向け、
学会35年の蓄積と成果をもとに大系化を図ったシリーズ、ついに刊行!

異文化間教育学大系【全4巻】

異文化間教育学会＝企画

体裁：A5判・上製カバー装 頁数：190頁～240頁
定価：各巻本体価格3,000円＋税

第1巻 異文化間に学ぶひとの教育

小島勝、白土悟、齋藤ひろみ 編
海外子女、帰国児童生徒、留学生、外国人児童生徒など異文化間教育学が対象としてきた「人」とその教育に焦点をあてる。

第3巻 異文化間教育の捉え直し

山本雅代、塘利枝子、馬淵仁 編
アイデンティティ、差別・偏見、多文化共生、カウンセリング、言語習得、バイリンガル、異文化間コミュニケーションなど異文化間教育学会が主要な研究主題にしてきたもの取り上げる。

第2巻 文化接触における場としてのダイナミズム

加賀美常美代、徳井厚子、松尾知明 編
家族、小・中・高等学校、大学、外国人学校、地域など異文化間教育が展開する場に焦点をあてる。

第4巻 異文化間教育のフロンティア

佐藤郡衛、横田雅弘、坪井健 編
異文化間教育学の大系化や学的な自立の試み、異文化間教育学の方法論や新しい研究の試みなどを取り上げる。

世界と日本の小学校の英語教育

早期外国語教育は必要か 西山教行、大木充 編著 ●3200円
ヨーロッパ多言語地域での早期外国語教育、またEUの「言語の目覚め」活動などの実例を参考に、日本での小学校の英語教育の歴史と課題、今後のあり方を考える。鳥飼玖美子氏と編者の鼎談を収録。

英語で大学が亡びるとき

「英語力＝グローバル人材」というイデオロギー 寺島隆吉 著 ●2800円
英語力が研究力、経済力、国際力であるかのような言説の誤りを正し、文科省が推し進める国立大学改革は、国際化に資するどころか研究力の低下、大学教育の崩壊に導く危険性があると警鐘を鳴らす。

言語教育における言語・国籍・血統

在韓「在日コリアン」日本語教師のライフストーリー研究 田中里奈 著 ●5000円
日本語を母語としながら国籍や血統にズレをもつ在日コリアンのライフストーリーを事例に、日本語教育における「日本人性」への信奉と話者の所属を重視する「単一志向」の根強さという問題を考察する。

社会科アクティブ・ラーニングへの挑戦

社会参画をめざす参加型学習 風巻浩 著 ●2800円
アクティブ・ラーニングの次のステップとして、参加型学習の理論と方法に基づいた基本、発展、社会実践レベルまでの教育実践を紹介。自律した市民のための学習である新たな社会科像を示す。

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
http://www.akashi.co.jp 振替00100-7-24505 *目録送呈 *価格税別

持続可能な 未来のための教職論

諏訪哲郎 監修
降旗信一・小玉敏也 編著

本体
2000円
●1922頁



大学の国際化と 日本人学生の国際志向性

横田雅弘・小林明 編著

本体
2000円
●216頁



近刊・乞う期待!

SDGsと開発教育

—持続可能な世界のための教育

田中治彦・三宅隆史・湯本浩之 編著

●約3000頁

2016年
初夏
刊行予定
(編集集中)

早稲田教育叢書 35

変動期ヨーロッパの 社会科教育 —多様性と統合

小森宏美 編著

本体
5000円
●134頁



〈多文化共生〉8つの質問

—子どもたちが豊かに生きる2050年の日本

佐藤友則 著

●本体2000円 176頁

途上国における基礎教育支援

上巻 —国際的潮流と日本の援助

小川啓一・西村幹子 編著 262頁

下巻 —国際的なアプローチと実践

廣里恭史・北村友人 編著 270頁

●本体 各2800円



教育課程・方法論 —コンピテンシーを育てる授業デザイン

松尾知明 著

●本体2300円 224頁

学校学力から生涯学力へ

前田耕司・佐藤千津 編著

●本体1700円 160頁

早稲田教育叢書 34

基礎から学ぶ比較教育学

長島啓記 編著

●本体2300円 242頁

生涯学習と多文化・多民族教育の研究

岩崎正吾 編著

●本体1800円 160頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

教員の異文化体験 —異文化適応・人間的成長・
教員としての成長—
鈴木 京子著 9000円

日本からの教員海外派遣プログラムで海外に滞在した経験を持つ教員を対象に質的調査を実施。異文化接触による人間的成長と教員としての成長について明らかにする。

感情心理学からの文化接触研究
小柳 志津著 9500円

異文化対人接触ではなぜ文化の違いが問題を引き起こすのか？ 本書は、コンテクストでの関係性が文化規範への評価や感情の質を決めることを明らかにした好著。

言語少数派の子どもの継続的認知発達の保障
穆 紅著 6000円

言語少数派の子どもの継続的な認知発達を保障するために、二言語能力（母語・日本語）の育成・保全について検討。生態学的支援システム構築のための示唆を得る。

アイヌ民族の言語復興と歴史教育の研究
上野 昌之著 7000円

アイヌ民族の文化復興活動と教育活動の中に内在化しているエンパワーメントに視点を置き、先住民族としての権利の実現および回復を図るための方策を論じた新著。

異文化間コミュニケーションにおける相互作用管理方略
佐々木由美著 14000円

文化スキーマ理論に基づき、各文化で獲得した方略スキーマにより、特定の相互作用の方略を選択することについて、実証的検証を試みた研究である。

リベラルアーツのための英文精読演習
リベラルアーツ英語教育研究会編 1200円

理工学系、人文科学系など文系理系の枠を超えた15名の英語教師が、各々の立場から大学生にとって「must-read」と思う英文を一篇ずつ選んで編集した英文精読の教材。

アメリカで生きた女性たち
浅井正行・浅井直子著 2500円

戦後、国際結婚によって米国に渡った日本人女性の言葉の・文化的障壁との戦いと、それを克服していったたゆまぬ努力の足跡をたどる。10人のオーラルヒストリー。

異文化接触における民族アイデンティティの役割
植松 晃子著 6500円

異文化環境での「アイデンティティ」を再考。異文化接触によるインパクトと心の影響について解明し、日本人留学生への心理的サポートのあり方について考察した。

ブラジル人生徒と日本人教員の異文化間コミュニケーション
西田ひろ子編著 2800円

日本で就学しているブラジル人生徒を対象に、勉学の際の異文化適応問題をスキーマ理論から分析。教員と父兄のアンケートから生徒が抱える問題解決への道を検討。

国際結婚の家族心理学 —日米夫婦の場合—
矢吹 理恵著 5500円

夫アメリカ人・妻日本人の夫婦を対象に、家庭で構築された文化の諸相と心理的な変容過程を分析。多くの事例から国際結婚家族の現状が鮮明に浮かび上がる。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <http://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

くろしお出版

言語への目覚め活動

複言語主義に基づく教授法

■ 大山万容 [著] / ¥1,800+税

異なる文化や考え方への気づきを促す「言語への目覚め活動」を、日本の教育現場に活かすには、どのような実践や教員養成が可能か。

インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践

■ 三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也 [編] / ¥3,800+税

言語・文化・教育をテーマに、現代社会に必要な言語能力に迫る。言語現象から国家が関与する問題まで、様々な視点から課題を提起。

リテラシーズ叢書4

異文化間教育とは何か

グローバル人材育成のために

■ 西山教行・細川英雄・大木充 [編] / ¥2,400+税

日本、フランス、イギリス、カナダの研究者たちが異文化間（インターカルチャー）教育の課題と人材育成との関連を明らかにする。

外国語教育は英語だけでいいのか

グローバル社会は多言語だ！

■ 森住衛・古石篤子・杉谷眞佐子・長谷川由起子 [編] / ¥2,800+税

高校の複数外国語の必修化を目指し、多様な外国語教育の環境を用意するための具体策と、「第2の外国語」学習指導要領案を提示。

「評価」を持って街に出よう

「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて

■ 宇佐美洋 [編] / ¥3,600+税

評価価値観の形成と変容や、言語（変種）に対する評価と言語行動など、言語評価について幅広く研究し、さまざまな視点から考える。

リテラシーズ叢書5

日本語教育学としてのライフストーリー

語りを聞き、書くということ

■ 三代純平 [編] / ¥3,000+税

インタビューをもとに共同で産出される個人の「ライフストーリー」について、「日本語教育学」の分野からその研究意義を問う。

言語教育実践 イマ×ココ

現場(イマ×ココ)の実践を記す・実践を伝える・実践から学ぶ

1,200円+税
創刊準備号 ISBN 978-4-904595-29-9
創刊号 ISBN 978-4-904595-39-8
No.2 ISBN 978-4-904595-51-0
No.3 ISBN 978-4-904595-67-1



『イマ×ココ』は、言語教育における実践の共有をめざす年刊雑誌です。現場の実践を丸ごと記し・伝えること、それを共有し、それぞれの眼差しで意味づけることで、実践をより豊かで多様なものに変えていくことができる、という信念の下に生まれました。広く投稿も受け付けます。詳しくは、「イマ×ココ」HPをご覧ください→<http://www.cocopb.com/imacoco/>

JSL 中学高校生のための 教科につながる 学習語彙・漢字ドリル (英語版)

樋口万喜子編 日本語・教科学習支援ネット 著
1,600円+税 ISBN 978-4-904595-65-7



留学生のための ケースで学ぶ日本語

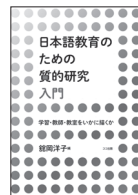
問題発見解決能力を伸ばす

宮崎七湖編著 1,800円+税 ISBN 978-4-904595-77-0

日本語教育のための 質的研究 入門

学習・教師・教室をいかに描くか

館岡洋子 編 2,400円+税 ISBN 978-4-904595-68-8



▽日本語教育学研究 6

未来を創ることばの教育をめざして

内容重視の批判的言語教育

(Critical Content-Based Instruction) の理論と実践

佐藤慎司・高見智子・神吉宇一・熊谷由理 編 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-69-5

▽日本語教育学の新潮流 14

人の主体性を支える日本語教育

地域日本語教室のアクション・リサーチ

野々口ちとせ 著 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-75-6

▽日本語教育学の新潮流 15

日本語教師の「葛藤」

構造的拘束性と主体的調整のありよう

有田佳代子 著 3,600円+税 ISBN 978-4-904595-78-7

株式会社ココ出版 〒162-0828 東京都新宿区袋町 25-30-107
tel & fax 03-3269-5438 e-mail: info@cocopb.com www.cocopb.com

国際教育 (全3巻) International Education

Three-Volume Set

Edited by **Tristan Bunnell, Mary Hayden, John Jeff Thompson** - University of Bath

Mar-2016 • 1,096 pp. ISBN: 9781473934375

List Price: £450.00 本体概価: 97,200円

ますます重要性の高まる国際教育について、主要理論や実践モデルを提示する重要論文のコレクションです。ヨーロッパ、南北アメリカのほか、アジア、中東についての論考も含まれており、グローバルな視野のもと編纂されています。

Vol. 1: Nature and Meaning of International Education / **Vol. 2:** Current Issues in Promoting International Education in National and Regional Contexts / **Vol. 3:** Current Issues in Promoting International Education in Global Contexts

異文化能力百科事典 (全2巻) The SAGE Encyclopedia of Intercultural Competence

Two-Volume Set

Edited by **Janet M. Bennett**

- Intercultural Communication Institute

2015 • 1,024 pp. ISBN: 9781452244280

List Price: £235.00 本体概価: 50,760円

異なる文化的集団に属する人・機関とのコミュニケーションに不可欠なものとして注目を集める異文化能力について、全2巻で解説する百科事典です。専門研究者による約350記事のほか、文献案内、Reader's Guide、年表等を収録しています。

Key Themes: Adaptation / Diversity and Inclusion / Education / Ethics / Globalization / Identity Development / Intercultural Training and Teaching / Language/Linguistics / Leadership across Cultures / Media and Social Networks / Research Paradigms and Research Methods / Theories and Concepts



※ご注文は各洋書取扱い書店までお願いいたします。
※商品の価格は改定・変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。
内容のお問い合わせ: **セイジ・パブリケーションズ日本社**
Email: sagejapan@sagepub.co.uk Website: www.sagepub.co.uk

最新刊 国際社会学ブックレット1〜3(各A5・並製)

① 国際社会学の射程

社会学をめぐるグローバル・ダイアログ
西原和久・芝真里編訳
二二八頁・二二〇〇円

② 国際移動と移民政策

日韓の事例と多文化主義再考
有田伸・山本かほり・西原和久編
一〇四頁・一〇〇〇円

③ トランスナショナルリズムと社会のイノベーション

越境する国際社会学とコスモポリタンの志向
西原和久著
一四四頁・一三〇〇円

国際移動と異文化・多文化

海外日本人社会とメディア・ネットワーク

パリ日本人社会を事例として
吉原直樹・今野裕昭・松本行真編著
A5・上製・四七二頁・四六〇〇円

移動の時代を生きる

人権カ・コミュニティ
大西仁・吉原直樹監修
A5・上製・二七二頁・三二〇〇円

東アジアにおける留学生移動のパラダイム転換

大学国際化と「英語プロ
グラム」の日韓比較
嶋内佐絵著
A5・上製・三二二頁・三六〇〇円

EUにおける中国系移民の教育
エスノグラフィ

山本須美子著
A5・上製・三七六頁・四五〇〇円

異文化間架橋の理念と実際

クリティック多文化、異文化

文化の捉え方を超克する
馬淵仁著
四六・上製・二四八頁・二四〇〇円

国際教育開発の研究射程

「持続可能な社会」のための比較教育学の最前線
北村友人著
A5・上製・二四〇頁・二八〇〇円

共生社会とマイノリティの支援

日本人ムスリマの社会的対応から
寺田貴美代著
A5・上製・二七二頁・三六〇〇円

教育の国際比較と各国教育の展開

東アジアの大学・大学院入学者
選抜制度の比較

中国・台湾・韓国・日本
南部広孝著
A5・上製・二〇八頁・三二〇〇円

アウトカムに基づく大学教育の質保証

チューニングとアセスメントにみる世界の動向
深堀聰子編著
A5・上製・三四四頁・三六〇〇円

トランスナショナル高等教育の国際比較

留学概念の転換
杉本均編著
A5・上製・三五一頁・三六〇〇円

アメリカ公立学校の社会史

コモンズクールからNCLB法まで
W・J・リース著 浅沼茂・小川佳万監訳
A5・上製・五二八頁・四六〇〇円

アメリカ間違いがまかり通っている時代

公立学校の企業型改革への批判と解決法
D・ラウイッチ著 末藤美津子訳
A5・上製・五三六頁・三八〇〇円

アメリカにおける多文化的歴史カリキュラム

増補版
桐谷正信著
A5・上製・二八八頁・三六〇〇円

現代アメリカにおける学力形成論の展開

スタンダードに基づくカリキュラムの設計
石井英真著
A5・上製・四五二頁・四六〇〇円

アメリカのバイリンガル教育

新しい社会の構築をめざして
末藤美津子著
A5・上製・二四〇頁・三二〇〇円

日本の外国語教育を考える

国際的にみた外国語教員の養成

編集代表 大谷泰照
A5・上製・三九二頁・三六〇〇円

近代日本の英語科教育史

職業系諸学校による英語教育の大衆化過程
江利川春雄著
A5・上製・三八四頁・三八〇〇円

多文化としての伝統文化の学び

〈シリーズ大学の授業実践〉より

文字を手書きさせる教育

「書写に何ができるのか」
新 鈴木慶子著
A5・並製・二六四頁・二四〇〇円

視写の教育

「へからだ」に読み書きさせる
池田久美子著
A5・並製・二四〇頁・二四〇〇円

作文の教育

「教養教育」批判
宇佐美寛著
A5・並製・二六八頁・二〇〇〇円

アクティブラーニング・シリーズ(各A5判)

全7巻 同時発売

なぜアクティブラーニングが注目されるのか。高齢化、人口減、明日への意欲を喪失した若者たち。グローバル化の中日本は衰退している。教育はこの趨勢を打ち破るほとんど唯一の手段だ。問題解決へ向け自ら活動・参画・実践する主体的学習へ。日本全体を巻き込むこの転換への期待が、いまアクティブラーニングを普遍化させているのだ。

① アクティブラーニングの技法・授業デザイン

安永悟・関田一彦・水野正朗編 一五二頁・二六〇〇円

② アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習

溝上慎一・成田秀夫編 一七六頁・一八〇〇円

③ アクティブラーニングの評価

松下佳代・石井英真編 一六〇頁・二六〇〇円

④ 高等学校におけるアクティブラーニング：理論編

溝上慎一編 一四四頁・二六〇〇円

⑤ 高等学校におけるアクティブラーニング：事例編

溝上慎一編 一九二頁・二〇〇〇円

⑥ アクティブラーニングをどう始めるか

成田秀夫著 一六八頁・二六〇〇円

⑦ 失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング

亀倉正彦著 一六〇頁・二六〇〇円

全7巻セット特価一〇〇〇〇円受付中 ※直接東信堂へ

＝外国人留学生募集広報サイト＝

『JAPAN STUDY SUPPORT』



JAPAN STUDY SUPPORTの特長

- ①導入実績が多い
1330の大学・大学院の情報掲載 / スーパーグローバル大学の約50%でご契約(H27年)
- ②文部科学省・JASSOから推奨サイトとして紹介
世界各地の日本留学フェアで、日本の大学の検索サイトとして推奨
- ③サイトの集客力が強い
年間約350万ページビュー数 / facebookいいね! :約68万人(H28年3月)
日本語学校の進路面談等での指導ツールとして当サイトをご活用
- ④8言語に対応
日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語で情報発信
アクセス比は、国内:海外=4:6 / 近年はASEAN地区からのアクセス数が急増
- ⑤募集広報の戦略立案の参考となるアクセス解析データのお届け

【留学生広報に関するご相談・お問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 営業開発部 JPSS担当係

TEL > 0120-369740(通話料無料 / 受付:月~金 10:00~20:00(祝日、年末年始を除く))

MAIL > shinshien@mail.benesse.co.jp

異文化間教育学会 第37回大会準備委員会

大会準備委員長 齋藤 伸子 (桜美林大学)

副委員長 池田 智子 (桜美林大学)

委員 甲斐 晶子 (桜美林大学)

石塚 美枝 (桜美林大学)

茶谷 恭代 (桜美林大学)

学生スタッフ 桜美林大学生・大学院生

表紙デザイン：桜美林大学 町田キャンパス

異文化間教育学会 第37回大会プログラム

発行日 2016年5月25日

発行者 異文化間教育学会 第37回大会準備委員会

委員長 齋藤 伸子

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学 齋藤伸子 研究室内

E-mail: ibunkakan37@gmail.com